

## ガクアジサイ

中村祥二 (会長)

### 思いがけないガクアジサイの香り

梅雨も半ばの6月末、植物に詳しい知人に香りの良い紫陽花が咲いてるから、来ませんかと誘われた。紫陽花がこれまで何度も花を嗅いでいるが、さしたる香りを感じたことはなく、強いて言えば少し苦っぽいイメージがあるかくらいに思っていた。半信半疑で出かけた。

川崎市の東高根森林公園にほど近い高台にある鎌倉時代に建立の妙楽寺境内には、たくさんの紫陽花が咲いていた。その大部分は紫のガクアジサイ

(*Hydrangea macrophylla* f. *normalis*)であった。

花と見えるのはガク片(装飾花)で、子供の頃からこれがアジサイの花とばかり思い込んでいた。実を結ばない萼片をいくら嗅いでもほとんど香りがしなかったのには納得がいく。

大きく華やかな装飾花に囲まれた、野菜のブロッコリーに似た粟粒より少し大きい蕾のかたまりに注目した。ところどころ小さい花が咲いている装飾花にくらべ目立たない花に顔近づけてみると意外に良い香りがする。その香りはコクのある甘いグリーンノートで、その中に潮風を思わせるマリンノート、オゾンのイメージが感じられる。オゾンのニオイは生臭く、少し薬臭く、青紫のイメージがして、確かに海辺の雰囲気を持っている。高電圧の紫色の電気火花が発する装置を扱う人ならだれでも放電で生まれるオゾンのおいを知っている。しかしこのニオイはごく日常に存在するもので、春から秋の季節、地下街や空調の効いた会議室から陽光の屋外に出た瞬間にこのニオイによく出くわす。



ガクアジサイ

*Hydrangea macrophylla* f. *normalis*

このグリーンノートの特徴は香水にもよく使われている。1990年代に大気、河川、海洋の汚染が大きな問題となり、人々は香りにも爽やかで気持ちを癒してくれる森や草原や海の自然な香りを望むようになった。デューヌ(ディオール)、ロードウ・イッセイ(イッセイ・ミヤケ)など数々の香水の名品が現れた。ガクアジサイの小さな花の集まりを嗅ぐと、香水の特徴のイメージと重なるのが面白く嬉しい。

ガクアジサイの品種改良も盛んに行われ、梅雨の季節の花は見事の園芸品種で賑やかである。ピンクから青紫色の「城ヶ崎」、白の「墨田の花火」、「ロイヤルホワイト」、ピンクの「ユングフラウ」、「カメレオン」、ブルーの「ロイヤルブルー」など多彩である。

5月末の淡路島海峡公園の植物園で大型の装飾花が美しい「アリラン」も同じ香りを放っていた。